



第 80 号  
 (年 4 回発行)  
 編集発行 学会  
 前学 院大 員会  
 広 報 委 員 会  
 印 刷 所  
 (有)小野印刷所

### 2020(令和2)年度入学式挙行



4月2日(木)、2020年度弘前学院大学並びに大学院の入学式を行いました。式は、新型コロナウイルスの感染拡大を極力排除するため、ご来賓の方々や保護者の皆様の参列をご遠慮して頂き、式次第も簡素化して行われました。文学部第50回、社会福祉学部第22回、看護学部第16回、大学院社会福祉学研究所修士課程第18回および文学研究科修士課程第16回、総勢221名の学生が入学されました。



（学長の式辞はHPにおります。）

### 株弘善商会よりマスク500枚寄付

石油製品の販売や、自動車の点検、整備及び修理、水道工事の設計施工などを行っている株式会社弘善商会（本社・弘前市）より、2020年5月18日にマスク500枚を寄付いただきました。大学教職員一同心より感謝しております。ありがとうございました。



ができるように、新型コロナウイルス感染症防止のために活用させていただきます。

### 地域活性化サークル

大学生になると、行動範囲が増え、新たな場所を発見する機会も多く、弘前には様々な場所があり、知らなかった場所もあると改めて感じました。そのような経験から、実際に行って、お店や場所をインターネットで紹介することが弘前の魅力を伝えることになり、地域活性化にもつながると考え、地域活性化サークルを立ち上げました。

私たちは今回の新型コロナウイルス感染症拡大により、大学に行けず、外出を自粛する中で、お世話になっていたお店や、何度も行っただけのお店がなくなるかもしれないという危機感を感じ、何かできることはないかと考えていました。その中で、中小企業も「マスクが購入できずお店を



### 中長期目標実施計画の確立・実践に向けて

学校法人弘前学院  
 理事長・学院長 阿保 邦弘



### 十四「教育改革の本丸」『ブランドデザイン答申』

平成三十年十一月、中央教育審議会は「答申」2040年に向けた高等教育のブランドデザイン

」を公表した。（以下「ブランドデザイン答申」と呼ぶ）

この答申が、目標年代を2040年に設定したのは、2018年に生まれた子供が大学を卒業する年を想定してのことである。

答申が発表された頃は、ある程度未来が見通せた時代であったが、新型のウイルスが世界中に蔓延することなど想像さえしていなかった。

ところが、コロナウイルスの感染拡大によって、「新しい生活の様式が提唱される事態に追い込まれ、生活スタイルの変更に求められることになった。

つい最近までは、人の絆の力が周囲に大きな感動を与えたり力説されていた。

ラグビーワールドカップ2019では、日本チームがさまざまな国の選手の寄せ集めであったにもかかわらず、ともに肩を組んで大きな目標に挑んだ。互いに手を携え、体を寄せ合っ

て、奇跡とも言える勝利を何度も国民に見せてくれた。

それが一転して、他人とは離れるように強く求められることになったのである。

教育現場では、「人を見たら陽性と思え」と教えなければならぬ時代となった。

私は、答申内容の成否は別にして、その示す方向性は決して消滅するものではないと思っ

ている。

教育に携わる人間だからこそ感じることもかもしれないが、未来を背負う若者の教育は最優先事項の一つだからである。また、本学院にとってもこの高等教育の答申は、一つの未来

申「は今後も存在価値を持ち続けるのだろうか。

それとも、価値を無くしてそのまま消えていく運命にあるのだろうか。

私は、答申内容の成否は別にして、その示す方向性は決して消滅するものではないと思っ

ている。

デザインとして参考にしていく価値はあると感じている。

さて、答申の冒頭に示されているように、2040年に向けて高等教育が目指すものは学修者本位の教育への転換である。

我が国の今後二十年間の教育発展の基本政策に、学生の育成、学生の成長のための改革や支援を位置付けた意義は大きい。

各大学にとって、今後の厳しい環境の中で大学発展を維持するためには、教育の質の向上、進路支援の充実、学生の満足度の

向上は避けて通れない事項であり、これが大学評価の中核にもなりうるからである。

以上、「ブランドデザイン答申」の趣旨は十分理解できるし、教育に携わる誰もがその必要性を感じてはいるが、この答申には議論当初からいろいろ意見があった。

国立大関係者からはおおむね好意的に受け入れられたようだが、私立大学の関係者から批判が沸き上がったのである。

（つづく）

# 「新型コロナウイルスと食育と」

学長 吉岡 利忠



異なる二つのタイトルを付けました。関連性がないように受け取られるかも知れません。内容を踏まえ「感染症と栄養」とタイトルを変えると、少しは違和感がなくなるのではないのでしょうか。細菌(微生物)やウイルスによる感染で疾病が発症する・しないは人体の免疫機構が強く関係しており、それを後押しするのがいわゆる健康維持・体調管理であり、その基盤には「食育」があるということです。

## 「新型コロナウイルス」

昨年末から新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的な大流行で私たちの生活環境は一変しました。人類(動物・生物)の歴史や進化は感染症(疫病)との闘いであると言つてしまえばそれだけのことですが、100年に一度と言われている強烈なしかもこれまで経験したことのない体験を私たちは、い

ま現在、否応なく受けています。今後どのように進展するのか、収束が見えそうもない状況は私たちに重く押し掛かっています。近代医学としての予防医学、感染症学などの発達があるにせよ、極く微小な敵に振り回されているような気がします。新しい生活様式という政府指導の行動もその対応として推奨されています。その中でマスク着用と手洗いの励行は科学的根拠に基づく適切な対応で励行しなければなりません。

このような現状下、大学教職員は教育、研究、運営にもテレワークの導入を考え、遠隔授業なども加える必要がありそうです。そのためのハードやソフトウェアも確立し学生と教員間のオンライン授業もこの際必要だと思われれますが、教育は対面授業

が本流。五感(視覚、聴覚など)を駆使してその場の雰囲気を感じ、能動的授業すなわちアクティブラーニングなどの双方向授業を主体とする教育体系で、かつデスクカッションやスマートフォングループワーク等も加えなければなりません。それらが最も効果的であることは誰しも認めるところです。特に実習、演習、技術、実技などの修(習)得にはオンライン授業等では十分であろうと考えます。

## 「食育」

食育は、生きるうえでの基本であつて、知育、徳育および体育の基礎となるべきものとしており、さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができるとして育てることであるとしています(食育基本法、平成16年6月制定)。

青森県は三方海に囲まれ森林や山岳そして広い平野は他県とは比較にならないほど雄大な自然に恵まれています。海の幸、山の幸、川の幸とさまざまな恩恵を受け、さらに米、野菜、果樹、生花、畜産などからヒトとして必要な栄養・カロリを新鮮な食材でしかも美味しく摂取できる環境にあります。糖質、タンパク質、脂質にミ

ネラル、ビタミンを加えて5大栄養素といい、それらを主食副菜、主菜、乳製品、果物、嗜好飲料、食物繊維および水分の取り方や摂取量などについては、食事バランスガイドに示されている通りです(厚生労働省、農林水産省)。3大栄養素は全てエネルギーになるわけですが、ビタミン、ミネラルはエネルギーを産生する代謝をサポートする役目。糖質、脂質は主としてエネルギー源となりタンパク質は主としてからだの構成素材となります。

さて、新型コロナウイルスは7種類発見されその中で4種類は普通の風邪の原因となりますが、残りの3種類はSARS、MERSと今回の新型コロナウイルスです。感染力がやや強く罹患すると重症になり死に至ることがあります。免疫力をアップすると感染症にかからないといえます。免疫の「疫」は病気のこと、「免」はのがれる意味で、病気

からのがれる力、になります。免疫には自然免疫と獲得免疫があり、前者はマクロファージ、ナチュラルキラー(NK)細胞、白血球などがあり、体内に侵入してきた微生物やウイルス(病原体)を攻撃し、後者にはリンパ球のT細胞、B細胞があり病原体に対する抗体を作ります。たとえばある種のウイルスに対する抗体ができるとそのウ

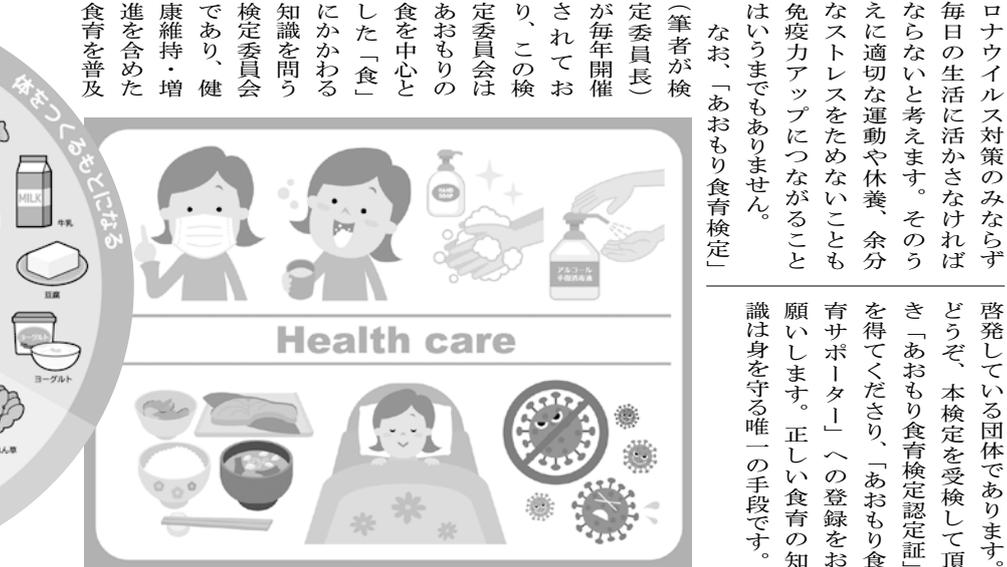
イルスが侵入してきても効率よく排除できるようになります。ワクチン接種はこれを利用したものです。以上のように二つの手段で病原体を攻撃します。免疫力に深く関係しているのが腸です。腸には免疫細胞が集中しています。免疫力を高めるには腸の環境を整えなければなりません。免疫細胞の主成分はタンパク質であり良質の肉、豆、豆腐などで得ることが出来ます。乳製品、キノコ類、味噌・醤油・漬物の発酵食品、ビタミン類やミネラル類はその働きを強化してくれ、いずれも青森県産で賄うことができます。また全国的に知れ渡っているブランド県産米に含まれる糖質はエネルギー産生の最も重要な栄養素であり、さらに脂質は腸管細胞膜や自然・獲得免疫に関係する細胞の細胞膜の構成成分です。また、腸の働きを良くするにはゴボウなどからの食物繊維が欠かせません。ここにあげたすべての食品は青森県産で賄うことができますし、しかも良質なものがばりです。このように、「食」の正しい知識を得てどのような「食」を選択し、常に自らの健康に関して留意することこそ病原体のからだへの侵入を阻止し防御し、生体の恒常性を維持することに繋がると考えます。

この機会に「食育」がいかに大切であるのかを考え、新型コロナ

ウイルス対策のみならず毎日の生活に活かさなければならぬと考えます。そのうえで適切な運動や休養、余分なストレスをためないことも免疫力アップにつながることはいうまでもありません。なお、「あおもり食育検定」

(筆者が検定委員長)が毎年開催されており、この検定委員会はあおもりの食を中心とした「食」にかかわる知識を問う検定委員会であり、健康維持・増進を含めた食育を普及

啓発している団体であります。どうぞ、本検定を受検して頂き「あおもり食育検定認定証」を得てください、「あおもり食育サポーター」への登録をお願いいたします。正しい食育の知識は身を守る唯一の手段です。



# 2020年度 特待生授与者

二〇二〇(令和二)年度の弘前学院大学特待生に、五月二十七日(水)十二時より賞状の授与が行われた。今年度の授与者は次の方々です。

## ◆文学部

- 2年 鶴ヶ谷朱梨
- 3年 三戸 凪
- 4年 下山あり紗

## ◆社会福祉学部

- 2年 西 亮馨
- 3年 野呂 汐里
- 4年 須藤 咲季

## ◆看護学科

- 2年 奥崎 彩聖
- 3年 外崎 七星
- 4年 蝦名 弘好

\*一年生については、前期成績発表後の十月に授与予定です。



# 父母と教職員の会 総会書面議決結果

例年、五月下旬に開催しておりました父母と教職員の会総会は、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から今年度は書面議決にて審議を行いました。

## ○第一号議案

二〇一九(令和元)年度活動報告

## ○第二号議案

二〇一九(令和元)年度収支決算

## ○第三号議案

二〇二〇(令和二)年度活動計画

## ○第四号議案

二〇二〇(令和二)年度収支予算

## ○第五号議案

役員改選  
会長 佐藤 和博  
副会長 今井 哲(新任)  
監事 村上 伸江(新任)

## ○本学教授

監事 村上 伸江(新任)

監事 佐々木正晴  
(本学教授)  
顧問 吉岡 利忠(学長)

書面議決の結果、第一号議案から第五号議案まで過半数をもって可決されました。今年度の父母と教職員の会の年間行事は、新型コロナウイルスの影響で未定ですが、開催が決まりましたら、別途ご案内をお送りする予定です。

# 文学部FD研修会報告(2020.3.19実施)

文学部 英語・英米文学科 講師 スティーブン・マックウイニー

文学部でティーチング・ポートフォリオの作成についてのFD研修会が開かれ、英語、英米文学科の講師マックウイニーが発表を担当しました。この研修会には文学部の教員が参加しました。

ティーチング・ポートフォリオは、教育の理念とその理念に基づく教育の実践等について振

り返るために用いられる、必要不可欠なツールです。

ティーチング・ポートフォリオは、5つのセクションから構成されます。第1のセクションでは、教育の責任を示します。教育の責任とは、具体的には、担当する授業やその他の教育活動などが該当します。第2のセ

クションで示すのは教育の理念

です。このセクションでは、教員の教授法を支える理論的基盤を記述します。そして、第3のセクションでは、教育の方法を詳述します。教育の方法は、教育の理念に基づいて開発され

かつ、教室の実態を考慮しながら形成されるものです。このセクションでは、教員が実際に授業で行うことが述べられます。

善点を特定し、その上で、学生

第4のセクションでは、学習の成果について記述します。学習の成果は、教員による評価と学生による評価の2つの観点に分かれています。教員による評価では、学生の学習到達度や改善の必要がありそうな学習領域について、教員の視点から評価を行います。一方、学生による評価では、学生自身が達成したと思う事項を示します。これは、FD委員会が収集した学生調査の結果を使用することで確認できます。教員は、自身の観察と学生の反応の両方から学習の成果を振り返ることができます。

最後のセクションでは、おそらく最も重要な事項である目標と改善を記述します。各教員は、教育の成果を確認して教育の改善点を特定し、その上で、学生

のニーズを満たすよう教育を改善するために、今後の目標を設定します。

ティーチング・ポートフォリオは、教員に教育の内省を促進するように設計されています。教育理念や教育方法のセクションにおいて、教員は、教育理念に基づいて教育方法を開発し、また、その教育方法に対しては、学生のニーズを満たすように流動的に調整が加えられます。学習成果のセクションでは、自身が定めた教育方法のうち、何が機能して、何が機能していないのかを知ることができます。最後のセクションは、教員が授業を改善して、より効果的な教育を行うための計画を立てる機会を提供します。

を提供します。

# 人事異動

## ◆新任紹介

文学部 講師 齋藤 章吾  
社会福祉学部 特任教授 西沢 勝則

## ◆退職

看護学部 教授 佐藤 厚子  
助手 岩淵 美沙  
事務職員 成田ひらり

## ◆異動

入試広報センター (看護学部総務課より) 中田麻衣子

## ◆退職

文学部 教授 吉永 直子  
看護学部 准教授 木村美智子  
事務職員 総務課 山口 徹  
入試広報センター 佐々木実香



# 2020年度 学科長・主任紹介

## ◆文学部

英語・英米文学科長 教授 エドワード・フォーサイス

日本語・日本文学科長 教授 鎌田 学

学務主任 教授 今村かほる

学生主任 教授 顧 偉良

◆社会福祉学部 社会福祉学科長 教授 西東 克介

## ◆看護学部

学務主任 講師 丸山 龍太  
学生主任 講師 駒ヶ嶺裕子

看護学部長 教授 土屋 陽子

学務主任 教授 佐藤 厚子

学生主任 教授 大瀬富士子

# 未知なる日本に触れたくて

文学部 日本語・日本文学科1年 寺田みこ



私は日本が好きです。独特の素晴らしい多様なことが母国にある、私はこのことが誇りで。

私は幼いころから、日本語や日本文化に触れることが好きでした。例えば幼少時代、NHKで放映されていた「にほんごあそび」という番組を楽しんで観ていた記憶があります。日本芸能や歌といった文化は、当時の私にとって衝撃的なものでした。

しかし、まだまだ私が知らない日本のことは多くあります。私はそれらのことを大学で学びたいと考えています。実際に授業で、様々なことを知ることができ、興味があることを新たに発見することができました。これからの大学生活で、さらに自

# わたしの夢

社会福祉学部 社会福祉学科1年 橋本 聖矢



私の夢は社会福祉士となり、地域包括支援センターに勤めることです。

私は高校の課題研究の授業で、「認知症カフェ」という活動をしてみました。認知症の方とその人を支える方々を校内の古民家に招いて、農作業や会話を通じた交流が与える心理状態への変化を調査するといった活動内容です。その活動の中で私の地元である五所川原市の地域包括支援センターの方々が、利用者の方との危機感を持たれない接し方や安全管理、青森県の認知症の現状などたくさんの方にアドバイスを頂きました。その

際、困っている人を最優先に考える姿勢や、地域の社会問題を解決しようと高校生の活動に目を向けてくださり様々な活動をされていること、人のために動き尽力する姿に感銘を受けました。そのことをきっかけに私は社会福祉士を志すようになりました。以上が私の社会福祉士を目指す主な理由です。

社会福祉士は、国家資格であり相談援助などを行う職業です。高齢や障がい、貧困など、何らかの理由で日々の生活を送ることが困難になった方へ、アドバイスをしたり問題解決のサポートをしたりする専門職です。

私は社会福祉士になるための勉強をしたいと思いい学の社会福祉学部へ入学しました。ソーシャルワークや障がい、社会福

分の知識を深めていきたいです。私の将来の目標は学芸員になることです。情報を簡単に手に入れることができるようになってきた現代でも、日本人が知らない日本文化が多くあります。前述したように私も同様です。そのため、日本人が母国の文化について興味を持ち、少しでも多くのことを知ってほしいと考えます。大学で学んだことなどを大勢の人へ伝えていくことで、彼らが母国について少しでも考える機会を作ることができると信じています。学芸員になり、そのことを実現できるようにしたいです。

イルスが流行し、授業が約一ヶ月遅れました。授業の進度や様々なことへの不安を抱えながらも新生活を送っています。大学進学により、授業時間の増加や各自での掲示板の確認など、高校生活と異なり周りの環境に大きな変化がありました。しかし、学ぶことが楽しく、交友関係も良好なため、充実した生活を送ることができています。

私の将来の目標に向け、これからは努力を続けて自分の興味があることを学んでいきたいです。さて、今年度は新型コロナウイルスや社や社会保障など専門的な内容を学び始め普段聞き慣れない言葉が並び、かなり苦戦を強いられています。さらに高校の授業時間の倍近い90分という時間内で最後まで集中し続けられるか不安でした。ですが、今まで触れたことのない分野を学び教室が毎時間変わる新鮮味や、空きコマでの休息のおかげでそんな不安も解消されました。

世に蔓延るコロナウイルスの影響で前期授業開始が遅れましたが、本学に通い始めて早二ヶ月が経とうとしています。これから本学で過ごす四年間という長い年月を無駄にせず、知識の専門性と人間性を高めていきたいと考えています。社会やものごとを多角的に見て適切な判断をくだせる現代社会において必要とされる人材となれるよう日々尽力していきます。

私には、教員になるという夢があります。教員になるにあたって、大学生活で身につけた力が三つあります。一つ目は、子どもたちが英語を楽しく、前向きに学べるような授業を作れる力です。私が中高生だったとき、英語自体に興味はあったものの、テストのためだけの暗記中心の勉強はな

## 新入生の夢と希望 「私の夢」

# 私の夢

看護学部 看護学科1年 斉藤 美香



私の夢は、患者さん一人一人に合った素早い判断、対応ができる看護師になることです。

看護師になりたいと思ったきっかけは、私が幼少の頃、目の手術をした際、手術の不安を看護師の優しい言葉と対応で和らげてもらいました。このように支えてもらった分、今度は患者さんを支える立場として多くの人の力になりたいと思ったことがきっかけです。

看護師になるにあたって必要なことは、患者さんへの適切なケアを行うための看護の知識や技術を習得する意欲、ハードな業務をこなすことができる体力と精神力が必要なることを高校時代の看護体験でお聞きしました。

二つ目は、障がいを持つている人とそうでない人両方の立場になって考えられる力です。私にはある友達がいて、その子と関わっているうちに、今まで自分にはなかった考え方や相手との接し方を学んでいき、私自身が他者の多様性をより認められるようになったと感じています。この経験から、障がいの有無にかかわらず、様々な立場の人が関わり合いを通してお互いに高めあえる環境は大切であり、特別支援学校教諭免許の取得とともに私自身が両方の視点から考えられる教員になりたいと考えているようになりました。

三つ目は、一社会人として社会とともに生きる力です。急速に変化していく社会を生き抜くためには私自身が社会に関心をもち、積極的に関わっていくべきだと考えています。また、社会参加する中で教員になったとき子どもたちに何を教えるべきか見えてくるのではないかと思っています。そのため、ボランティアなど大学生の今しかできないことに積極的に取り組んで経験を積み、視野を広げたいです。

弘前学院大学に入学し、約三ヶ月が経ちます。基礎的なことはもちろんですが、その他にも様々な分野があり、多くの知識を身に付けることができると思います。さらに進級することによって深く学ぶことができ、一つ一つの授業を大切にしながら、学生生活を送っていきなりたいです。そのために、時間の使い方を工夫し、予習復習に力を入れ、学習に取り組んでいきたいです。演習では時間を見つけて練習を繰り返しながら、実習に備えたいです。入学してからナース服を着た先輩方を見ると夢に近づいている感じがして気持ちが高まります。

この学生生活を充実させて、必ず国家試験に合格し、看護師になるという夢を叶えたいです。